

令和3年度 校内研究計画

平戸市立中野小学校

昨年度の申し送り事項確認

昨年度は、算数科とプログラミング学習の2本柱で研究を行ってきた。昨年度末の申し送り事項として、令和3年度も研究内容は算数科に取り組むという方向性が決まっている。

更に算数科の研究を行っていく上で、児童の思考力や読解力をより高めるような研究を進めていく必要性も見えてきた。

また、昨年度より始まったプログラミング学習も継続して研究していく必要もあり、さらに一人一台の活用が期待される chrome book の指導の仕方の研究も必要であるという意見が出ている。

そこで、今年度は、メインは算数科の研究そして、教師の指導の幅を広げるという意味でもプログラミング学習と chrome book を使った学習の指導法の開発や研究も個々人で進め、校内研修を通じて開き合うという形の研究にできないだろうかと考えている。

以下は昨年度末の校内研での話し合い結果である。

メインは算数科で！

毎日指導すること

児童の実態：文章題に弱い。問題を読み取って解いていくことが苦手。

複式で、自分たちで授業を進めることができるようになるためにも、システマチックな授業の組み立て方（今年度の内容）をしっかりと定着させることが重要。

中野小児童の苦手としている領域を授業に仕込む。

プログラミング教育

プログラミングについても今年度程度で継続したい。朝のプログラミングタイム等の活用や、実践報告等の時間を設定して欲しい。

クロームブック

校内研の時間を利用して、活用の仕方の研修会や実践報告等、職員のスキルアップの時間を取って欲しい。

＜校長先生の考え＞

年に1回くらい指導案を書いて自分自身勉強しましょう。

どの先生も2本ずつ授業公開を！（1つは校内研の公開授業、もう1つは初任者への示範授業）

1 研究主題

学ぶ喜びと楽しさを感じ、ねばり強く学習に取り組む児童の育成

～協働して思考を深める指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

①最近の教育課題から

資質・能力を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、身につけた基礎的・基本的な内容をどのように使うかという思考力・判断力・表現力等を育てることが求められている。

したがって、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶための指導方法を充実させていくことが大切である。

このようなことから、主体的に学び意欲や態度の育成を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を高める指導方法の工夫を通して、研究を進めていくことは、とても価値のあることであると考えます。

②学校教育目標と重点目標の具現化から

ふるさとを愛し、夢と誇りをもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成

本校の教育における目指す児童像を受けて、算数科における具体的な児童像を以下のように設定した。

◇思いやりのある児童

・共に学び合う児童

◇自ら考えて工夫する児童

・進んで考え、よりよく問題解決をしようとする児童

◇たくましい体と実践力のある児童

・ねばり強く取り組む児童

③児童の実態から

昨年度は「考える・深める」過程で『〇〇タイム』を設定することで学習の流れを意識させた。また、「つかむ・見通す・考える、深める・まとめる」を基本の過程として、授業を組み立てることで、児童がパターンを理解し安心して授業に望むことができた。

また、他の教科やすべての教育活動の中で言葉の使い方や伝え方を意識させる指導を行ってきた。その結果、児童らはしっかりと自分で考えたことを自分の言葉で相手や集団に伝えよう、よりよく表現しよう、という意欲が見えるようになってきた。また、めあてやまとめも児童の言葉を使って立てることができるようになってきた。それにより学習にも目的意識をもって主体的に取り組むことができるようになってきた。

しかしながら、学力テストの結果を考察すると、思考力が問われる問題の正答率が低い。その要因として問題を読み解く力がないことが挙げられる。読解力の向上も必要である。

そこで、今年度の目標としては、

- 協働して学習を進めるために、目的意識をもって、ねらいに沿って話したり聞いたりする。
- 指示や教えてもらうのを待つのではなく、自分の力で問題解決させる。
- 児童が話す時間を十分に確保する。そのために指導内容や過程を精選する。
- ということを挙げたいと考える。

3 研究仮説

算数科の学習過程において、次のような指導の工夫を行えば、児童が学ぶ喜びと楽しさを感じ、ねばり強く学ぶことができるであろう。

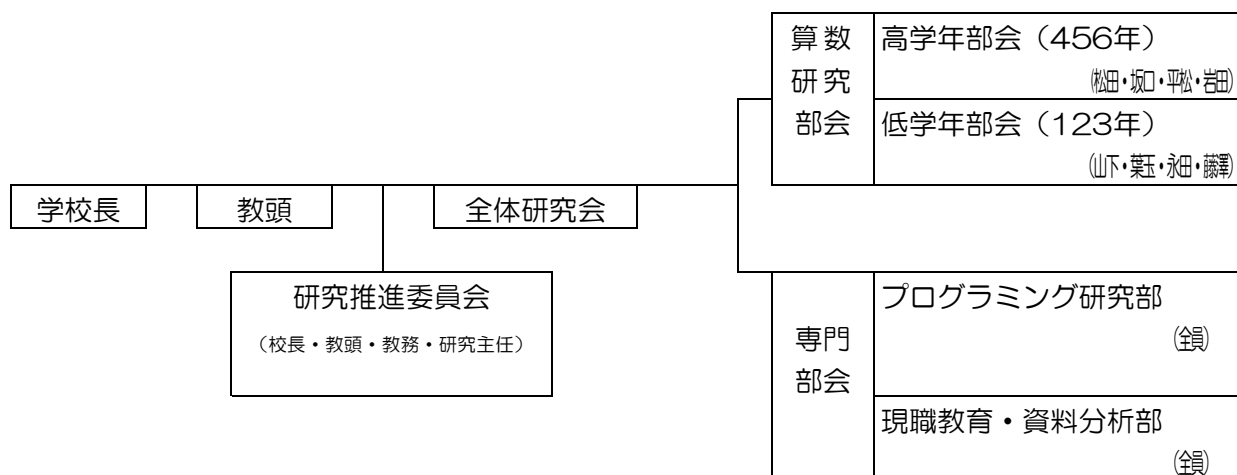
- ①学ぶ意欲を高める単元構成や導入の工夫
- ②協働して思考を深める指導の工夫
- ③次の学びにつながる振り返りの在り方の工夫

- ①「学ぶ意欲を高める単元構成や導入の工夫」 とは
 - ・必然性のある課題設定
 - ・課題解決に向けた見通しを立てる活動の設定
- ②「協働して思考を深める指導の工夫」 とは
 - ・個別に考え、表現する時間の保障
 - ・ICTを活用した思考の可視化
 - ・新たな気付きや理解の深化を促す言語活動の設定
- ③「次の学びにつながる振り返りの在り方の工夫」 とは
 - ・付けたい力を明確にした授業づくり
 - ・学ぶことの意義を実感できる振り返りの工夫

4. 研究内容

- 算数科授業内容の研究（研究授業または、実践報告）
- クロームブック操作スキル＆プログラミングスキルアップのためのスキルタイム
- 特別支援教育の考え方を生かした個人差に対応した授業づくりの工夫
- プログラミング教育の推進（担任のスキルアップ＆授業研究および実践）
- 家庭・地域との連携、各種行事とのリンク
- 先進校視察、出張報告

5. 研究組織



部会		研究内容（案）
算数研究部	低学年部	・児童の実態に応じた学力向上に向けての対応策及び検証法の立案 ・算数の指導法の研究及び提案 ・ＩＣＴの効果的活用法の提案 ・複式での学習スタイルの提案 ・特別支援教育の考え方（ユニバーサルデザイン）を生かしての授業づくりについての研究と提案
	高学年部	・研究授業の推進 ・教材教具の整備 ・家庭学習・読書活動の啓発活動 ・学力向上のための校内環境整備 ・児童，家庭，教師の意識調査 ・読解力向上のための取り組み
プログラミング研究部		・プログラミング教育の啓発 ・プログラミング教育の教材研究 ・授業研究 ・指導案（略案）作成 ・授業実践（※授業公開）
現職教育・資料分析部		・現職教育の計画、実施 ・掲示物等の計画、作成 ・各学力調査結果分析